

南西諸島及び九州西方海域において小型船を用いた 近海かつお釣り漁業操業システムの開発

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010151

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



南西諸島及び九州西方海域において 小型船を用いた近海かつお釣り漁業操業システムの開発

開発調査センター 資源管理開発調査グループ

研究の背景・目的

- 1. 生鮮カツオの供給に重要な役割を担う近海かつお釣り漁業では、多くの船が代船建造の時期にある中で、燃油価格を含めた諸資材の高騰や後継者不足等の課題をかかえています。そのため、近海かつお釣りの主漁場である南西諸島及び九州西方海域に適した船体の小型化と乗組員削減による経費の圧縮、居住空間の改良などを機軸とした次世代型かつお釣り漁船の導入が期待されています。
- 2. 開発調査センターでは、南西諸島及び九州西方海域における近海かつお釣り漁業の経営改善を図るため、漁船を19トンに小型化し、船体に見合った適切な漁場選択による効率操業、漁獲物の高鮮度化による単価アップ及び採算性の確保をねらいとして調査を行っています。

研究成果

- 1. 調査は、平成20年1月に建造された次世代型近海かつお釣り漁船「第5松徳丸（19トン）」を用船して行い、南西諸島海域で3.7日間、九州西方海域で2.6日間と短期航海が可能であることを実証しました。
- 2. 漁獲物は、宮崎市場と長崎市場で販売しました。第5松徳丸のカツオは、同じ日に水揚げした他船のものよりも50～100円程度高値がつき、短期航海による高鮮度製品として高い評価が得られました。
- 3. 釣り手1人・1カ月当たりの漁獲は、従来の94トン型が3.2～4.3トンであったのに対し、第5松徳丸では5.7トンと高く、小型化することによる効率的な操業が可能であることが示唆されました。
- 4. 燃油消費量も従来の94トン型船の約55%程度に止まりました。
- 5. 以上のことから、19トン船型での短期航海による“瀬付きの大型カツオ”を狙った操業は、人件費や燃油経費の諸経費を削減しつつ、カツオを高価格で販売することにより、高い収益性が確保される可能性があることが示唆されました。

波及効果

この成果が地元へ普及することにより、高鮮度カツオの安定供給に資することが可能となり、近海かつお釣り漁業の一層の活性化が期待されます。

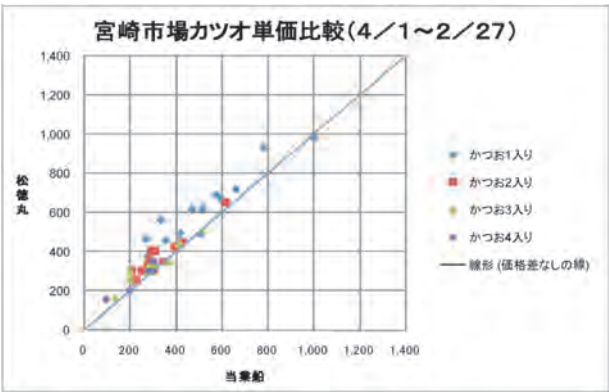


図1. 宮崎市場における第5松徳丸と当業船との銘柄別単価比較

単価 380円:	1,482千円	1,216千円	1,634千円	2,166千円
単価 319円:	1,244千円	1,021千円	1,372千円	1,818千円
漁獲量:	3.9	3.2	4.3	5.7

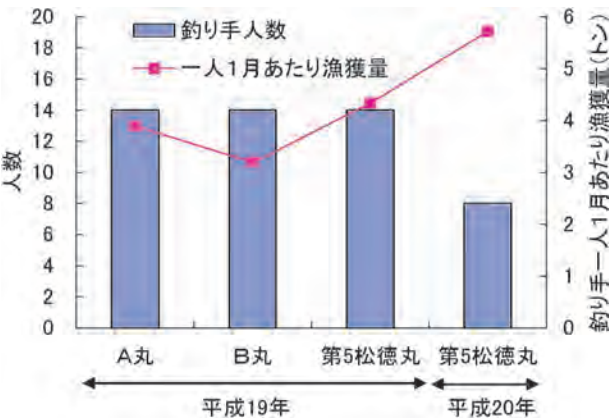


図2. 第5松徳丸と当業船との釣り手1人・1カ月当りの漁獲量・水揚げ金額比較

表1. 第5松徳丸と当業船との1カ月当りの燃油消費量比較

		平成20年度① 新松徳丸(19トン)	平成19年度② 旧松徳丸(94トン)	①/② %
燃油	使用量(kl)	24	44	55%
	金額(千円)	2,714	2,844	95%
	単価(円/kl)	112,538	64,813	174%
水揚げ	数量(トン)	30	45	67%
	金額(千円)	12,001	14,046	85%
	単価(円/kg)	394	309	127%
燃油1kl 当たり	水揚げ数量(kg/kl)	1,265	1,036	122%
	金額(千円/kl)	498	320	155%